

## 『斉藤投手とイチロー選手と和田監督』の関係

みなさん、こんにちは！

3月の超ハードな工事日程を元気に無事、無事故無災害で乗り切ることができました！安全作業にご協力、本当にありがとうございました。

やっと春になりました。春といえばプロ野球の開幕です。

開幕投手になった日本ハムの斉藤投手の勝利インタビューしびれました。

斉藤投手やサッカーの本田選手が使っていた『自分は何かを持ってる』という表現が進化して、『今は持ってるではなくて、背負ってます』という表現でエースの自覚を表現しました。

自分のための自己成長から誰かのための自己成長。自己成長の頂点を極めていくと必ずどこかで下から背負うように底辺に戻る。そしてまたその状態から自己成長が始まる。こういう終わりの始まりのようなクライムの壺的心境の変化が起こり、それが言葉の端々に現れてくるのだらうなあと思いました。そんな進化の瞬間に立ち合わせてもらったような気がしました。これからも斉藤投手の勝利インタビューは見逃さないですね。

見逃さないといえばマリナーズです。

ホークスの川崎選手が入団しました。

これは少年ジャンプ『男一匹ガキ大将』の戸川万吉の子分に銀次がなるに等しいです。

(古すぎて誰もわからないですね。ごめんなさい笑)

孤高の戸川万吉が言えないことでも銀次なら言え、理想を見ている万吉に

対して下世話な今を見れる銀次なら組織の普段の雰囲気を作れる。

ランナーが1塁に出たら少しでも次の塁に進めて得点の可能性を高める野球＝スモールベースボールをプライドの塊のような選手が集まった大リーグのチームの中に浸透させることができるかもしれないとひそかに期待しています。

できればツインズの西岡も入れて、1番西岡、2番川崎、3番イチローのマリナーズが見てみたいですね。高額の長距離バッターばかりを集めた球団が多いメジャーの中で徹底してスモールベースボールに特化した、できればイチローがプレイングマネージャー(監督兼選手)になって陣頭指揮を執ってもらいたいですね。イチローファンの潜在的心理はもう首位打者イチローではなくチームを背負った監督イチローが見てみたいという思いに移行してきているような気がします。

さて、スモールベースボールというと我が和田阪神です。

和田監督が監督に就任した時点から1点を守りきる野球をするといい続けておられます。

明確に方針を打ち出しているので選手もわかりやすく目的をもって練習にも取り組めて非常にいいのではないかと感じています。1点しかとらなくていい野球と選手の潜在意識に勘違いされなければいいですね。

キャンプ中には投手と野手が役割を変えて練習をするというユニークな取り組みもありました。

野手がブルペンでピッチング練習をして、投手がメイン球場でフリー打撃をする。相手の立場に立って野球を学ぶという取り組みだそうです。自己成長系ですね～。

もっとびっくりしたのは和田監督が選手を集めて話した逸話です。なんとこんなお話をされました。

『皆さん目を閉じて高校生だった頃の姿を思い出して下さい。憧れの甲子園を目指して頑張っていますよね？その憧れだった甲子園は今皆さんのホームグラウンドです。あの頃の気持ちを忘れず甲子園を本拠地にする誇りと責任感を持って下さい』凄くないですか？今までこんな監督は阪神ではいなかったと思います。気持ちを代弁するとすれば『昨年からは飛ばないボールに変わった。1点を守りきる野球をしよう。基本に忠実な野球をしよう。しかしその前に大切なことを思い出してほしい。当たり前には野球をしてほしくない。ここは甲子園。野球を愛する人たちの聖地。そこで野球ができることの幸せと誇りと責任を背負ってほしい。一塁側に球の勢いを殺したセーフティスクイズを量産し、高校球児にもプレイの手本を示しながらスモールベースボールで優勝しよう！』こんなところでしょうか？

和田監督も選手にプレイだけではなく何かを背負うことを求めています。

『背負う』はこれからの日本のキーワードとなると思います。

『背負う』という生き方の反対語は『天下り』です。偏差値の頂上を極めてそれで終わる生き方です。

『背負う』のは重いので頭で考えるとバカバカしいとなるのですが、1度でも何かを背負うと新しい生き生きとしたエネルギーが湧いてくることを体が実感するのではないのでしょうか？

その新しいエネルギーが野球を変え、社会を変え、日本を変えていくのではないかと思います。

背負っている選手、役人、政治家、先生、経営者、社員、親はみんなエネルギーではないでしょうか？

新しいエネルギーを開発し、石にかじりついても国内雇用を確保し、瓦礫も受け入れる。そんな自動車産業の末端の末端で作業する我々にも確実にエネルギーが連鎖して来ています。

4月10日は東北復興支援の気持ちを背負って第2回テクア30キロチャリティーウォークの日です。

みなさんエネルギーにご参加ください。歩けなくなったら背負ってね(笑)！



感謝！羽原篤史

